

学校教育目標	学びをつなぎ 豊かに表現し よりよいものを 主体的・協働的に求め続ける 三幸っ子の育成 ～ 日々のひたむきな教育活動を通して ～		
--------	--	--	--

a ミッション	組織的なカリキュラム・マネジメントの機能化による教育活動の充実	a ビジョン	・子供の夢や希望の実現に向け、ひたむきに取り組む学校 ・日々の実践を丁寧に積み上げる学校
---------	---------------------------------	--------	---

尾道市立三幸小学校

評価計画				自己評価					学校関係者評価			改善計画			
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h	i	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案	
					達成値	達成値	達成度	評価		イ	ロ	ハ			
社会に出て活躍するために必要な資質・能力の育成	「知識・技能」「表現力」「主体性・協働性」の着実な向上 (着実に基礎学力を身に着け、自分の考えを持ち、友達と協働して粘り強く課題に立ち向かう姿) ・GIGAスクール構想の推進	○授業改善 ・GIGAスクール構想における単元開発の推進(算数科において、タブレット端末の共有機能を活用した交流の実施によって、思考力・表現力を育む) ・タブレット研修の充実(月に1回以上)	○標準学力調査(算数科)の思考力・表現力を問う問題で全国平均15ポイント以上(1・2学期は、算数科学期末テスト)	標準学力調査(算数科)全国取組均+5ポイント	90%				A	1学期末テスト算数科は全校平均が90.4点であった。内訳は、知識・技能の正答率が91.5%、思考・判断・表現力の正答率が89.3%であった。習得した知識・技能が思考・判断・表現力に結びついていない児童も見られた。その一つとして、単元のどこで、思考・判断・表現させるのか、場や時を単元計画に位置付けて指導する必要がある。また、ICT機器等の活用を通して、自他の考えを比較・分類する等の過程を通して求められる力を付けさせていくこと、そして、全児童が基礎基本の定着を図るため、個別最適化の学びを確保していく。	5	本年度、新しく要点に挙げている「知識・技能」の向上が見られます。一人一台のタブレットの環境が整い、ICT活用の研修充実が成果を挙げたのだと思います。 継続して取り組んでいるノート交流会の研修は、学校全体の取組として発展し、成果が表れていると思います。長年の積み上げが児童に自信を付けさせていると思います。今後も実践の継続を期待します。 ルーブリック評価を効果的に取り入れ、一人一人の自己肯定感をさらに高めて欲しいと思います。 教育活動全体を通して、児童が着実に力を付けているのではないかと思います。	ノートに教師が児童に何を書かせたのか、価値の高い記述は何か(評価規準の具体化)等、内容面の充実を図る手立てを講じる。授業内容を設ける際に、特に重点的に記述させる場面を設けるなど、焦点化を図ることで効果を高めます。 テストだけでは評価がにくい学習内容や思考力などにおいて、ルーブリックの視点を取り入れ、学習到達状況を評価するために生かす。その際、結果とあわせ学びの過程を大切にします。		
				算数科学期末テスト達成率85%	80%	79%								B	視点に沿った振り返りができている児童は、目標値80%に対し、達成値79%、達成度は98%であった。本校では振り返りの充実を目指して教育活動を行っている。毎月実施しているノート交流会では、各学級の算数ノートを持ち寄り、自己解決の過程や他者の意見を聞いて補足や修正が書き加えられているか等をもとに研修を行っている。また、「三幸小ノートスタイル」を基に視点に沿って書かれたノートを「算数ノート名人コーナー」として掲示することで学校全体としての取組となってきている。今後、学年の系統性、取組状況の提示・活用法、ICT機器の活用等をさらに研修、実践することで児童に目指す力を付けていく。
				○学びに向かう意識の向上 ・振り返りの徹底と充実 ・知識・技能、表現力、主体性・協働性を意識したルーブリックによる評価	○視点に沿った振り返りができている児童(教師アンケート)	80%	79%								
予測不能な社会を生き抜く児童の育成	カリキュラム・マネジメントの推進 ○小中9年間の系統を踏まえたカリマナの推進(学びをつなぎ、自ら探求しようとする姿)	○教科横断的なカリキュラムの実践 ・言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力を活用したカリキュラムの作成	○国語科、算数科の単元末に教科横断的なカリキュラムについて、記述アンケートを実施。教科名、内容、生活場面を具体的に記述する児童(児童アンケート)	80%	67%				B	児童の記述に対し、教師が内容を見取って結果を出している。記述アンケート実施に際し、事前に「何が、どこまでできていれば(記述していれば)具体的かつ内容を伴ったものであるか」「教科横断的な視点で書かれているかの視点や基準」等をより明らかにして取り組んでいることが十分でなかったことも今回の達成値につながっている。今後は、指導及び見取りの在り方を必要に応じて見直ししていく。夏期休業中には、教科横断的な視点でカリキュラムマップを作成する。学習していることが、他教科・領域、生活等の何とどのように関連しているのかを児童に具体的に考えさせ、学びのつながりを意識させていく。	5	記述アンケートでの達成値は67%だけ別と、多くの児童が、今の学習が他教科や生活の中につながり、活かされていることに対する理解ができていると思います。今後は、知・徳・体の視点でも、学びをつなげて予測不能な社会を生き抜く力を培って欲しいです。 就学前の保育の場面においては教科別ではなく複合的な保育内容となっていますが、それでも学びをつなげることが難しいことも多いです。しかし、資料からは教科をこえて物事をつなげていく姿がよくみられました。横断的な視点で物事を見ていくことの大切さを改めて感じました。 児童個人がそれぞれの特徴を生かした学習内容を展開していくことは困難であると思いますが、一方的な指導内容ではなく、個々の能力に応じた適切な指導方法を考えていくことも大切だと思いました。			
				○教科横断を意識した授業についての意識調査で「学びをつなぐことができた」と答える児童(児童アンケート)	80%	88%									
				○業務改善の推進による子供と向き合う時間の確保 ・月1回は業務改善の知恵提案・実施(働き方改革への意識改革)	時間外在校等時間の平均 前年度比(同月) -5%	100%	0%							D	
統一感・一体感のある学校体制づくり	危機意識を持ち、知恵を出し合い、よりよいものを求め続ける教職員 (常によりよいものを求め続ける教職員の姿) (働き方改革の推進)	○組織の決め事を取組の差なく実践 ・統一感・一体感のある組織体制の確立	「安心して学校に通わせている」と肯定的評価をする保護者90%以上(保護者アンケート)	90%	94%				7月に行った保護者アンケートによると「安心して児童を学校に通わせている」の項目において94%の家庭に肯定的評価をしていただいた。反面、6%の保護者はそのように感じていないことを示している。アンケートには受けなかった保護者の心の底の部分の思いもしっかりと表せながら、2学期も真摯に、地道に日々の実践を進めるよう教職員で再認識をしていきたい。	5	このコロナ禍で保護者の肯定的評価が94%は素晴らしい。保護者が安心して学校に通わせているのは、先生方の子供達に対する関わり方や学校の在り方の良さを感じるからであると思う。統一感・一体感のある取組の継続と、保護者へのタイムリーな情報発信が、保護者への工夫をする。地域の方の安心感につながる。短いスパンでの勤務状況の把握や、月目標の設定、時程の工夫により、時間外在校等時間の減少に努める。				
				○業務改善の推進による子供と向き合う時間の確保 ・月1回は業務改善の知恵提案・実施(働き方改革への意識改革)	時間外在校等時間の平均 前年度比(同月) -5%	100%	0%							このコロナ禍で保護者の肯定的評価が94%は素晴らしい。保護者が安心して学校に通わせているのは、先生方の子供達に対する関わり方や学校の在り方の良さを感じるからであると思う。統一感・一体感のある取組の継続と、保護者へのタイムリーな情報発信が、保護者への工夫をする。地域の方の安心感につながる。短いスパンでの勤務状況の把握や、月目標の設定、時程の工夫により、時間外在校等時間の減少に努める。	

【自己評価 評価】
A: 100% (目標達成) B: 80% (ほぼ達成) < 100
C: 60% (もう少し) < 80 D: (できていない) < 60

【外部評価】 イ: 自己評価は適正である。ロ: 自己評価は適正でない。 ハ: わからない。